2018 年度 事業報告

特定非営利活動法人ＮＩＥＤ・国際理解教育センター

1 事業実施の方針

次に掲げるビジョン、ミッション、バリューに基づき、事業を行った。

＜ビジョン＞

よりよい未来を、こどももおとなも、ともに学び・ともに創る社会をめざします。

＜ミッション＞

ビジョン実現のために、「国際理解教育」の実践として、次のことに取り組み続けます。

❶ 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。

❷ 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。

❸ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。

❹ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。

❺ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

＜バリュー＞

【尊厳と信頼】ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。

【願いと選択】何を目指すか、どう行動するかを問い続けること。

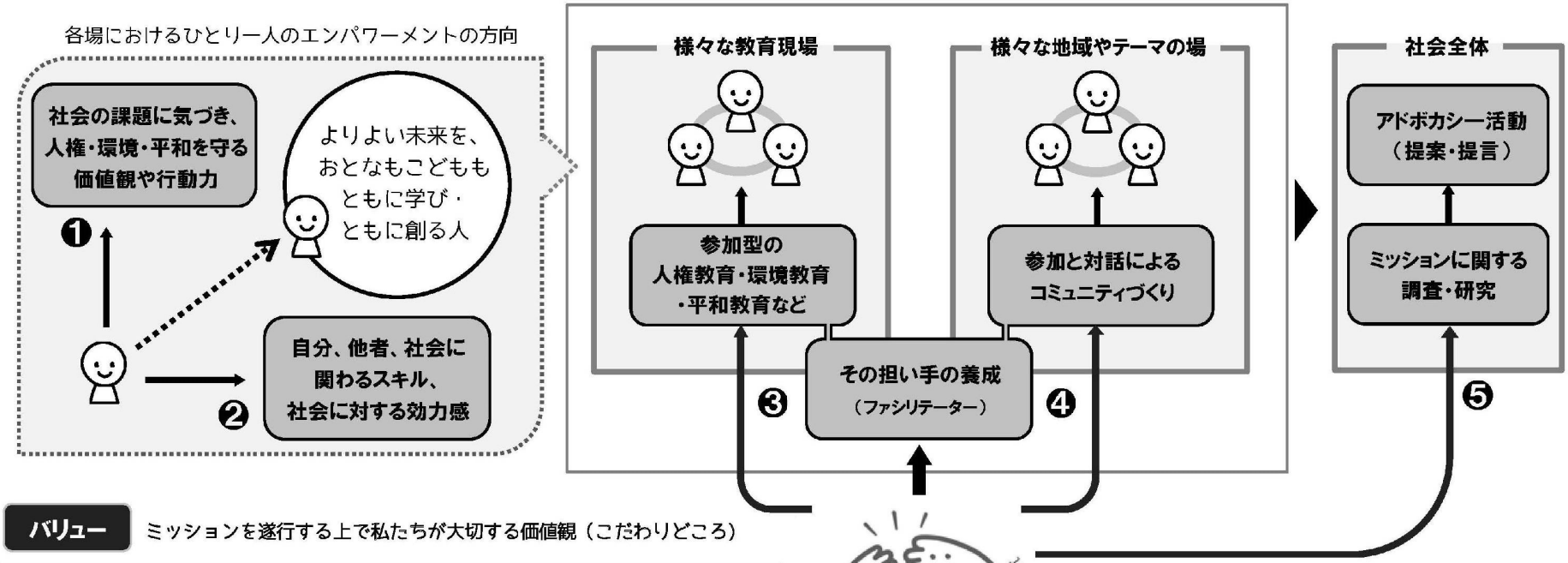
【教育と実践】ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。

※カギ括弧の「国際理解教育」は、一教育分野としての国際理解教育を指すものではなく、ここに掲げたビジョン、ミッション、バリューを実践、推進する活動全体を指すものである。当団体の名称も同義である。

ビジョン 私たちが目指す社会の姿

よりよい未来を、こどももおとなも、
ともに学び・ともに創る社会

ミッション ビジョン実現のために私たちが果たす社会的使命＝「国際理解教育」の実践



バリュー ミッションを遂行する上で私たちが大切する価値観（こだわりどころ）

【尊厳と信頼】 ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。
【願いと選択】 何を目指すか、どう行動するかを問い続けること。
【教育と実践】 ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。

特定非営利活動法人
NIED・国際理解教育センター
（ファシリテーター）

2 2018年度業務の全体像

（1）ワークショップの提供状況や内容の外観

◇参加の文化を拡げる指標の結果は下表のとおりである。全体的な傾向としては、一部の指標を除いて昨年度と同等レベルであった。

◇新規業務率が 32%、指導者研修率 51%と減少傾向にある。

指標名	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
業務数	43	43	35	36	**37**
WS提供日数	181	169	159	139	**135**
WS提供時間	536	481	428	442.5	**460.5**
WS参加者数	1,985	1,631	1,468	1,424	**1,446**
延べ参加者数	3,926	3,292	3,258	3,034	**3,200**
新規業務数	20	18	14	13	**12**
新規業務率	47%	42%	40%	36%	**32%**
継続実施数	23	25	21	23	**23**
指導者研修率	63%	63%	54%	59%	**51%※**

※：１業務の中に指導者研修と一般研修・子ども研修がある場合は分けて計上した。分母は 44 業務である。

（2）扱ったテーマ　自主講座・プロジェクトを除く（母数 32 業務）

◇まちづくり・団体支援系（ボランティア、ファシリテーションを含む）が 14 件と最も多く、次いで国際理解系（SDGs、国際交流、多文化共生を含む）が 11 件、人権系（コミュニケーション、多様性受容、対立）が 7 件となっている。環境系は、近年 2 件で推移していたが、本年度は 0 件となった。

テーマ	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
国際理解系	13 件	16 件	11 件	12 件	**11 件**
人権系	12 件	11 件	5 件	8 件	**7 件**
環境系	10 件	2 件	2 件	2 件	**0 件**
ファシリテーション・まちづくり系	7 件	12 件	14 件	7 件	**14 件**

（3）実施した地域　自主講座・プロジェクトを除く（母数 32 業務）

◇愛知県が 22 件と最多で大半を占め、次いで四国の香川・高知県が 5 件となっている。そのほか岐阜県が 2 件、長野県 1 件、滋賀県 1 件、東京 1 件であった。

地域	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
愛知県	33 件	31 件	29 件	23 件	**22 件**
岐阜･三重県	5 件 [2､3]	6 件 [3､3]	3 件 [2､1]	4 件 [2､2]	**2 件** [2､0]
香川･徳島･高知県	5 件 [3､1､1]	3 件 [2､0､1]	1 件 [1､0､0]	6 件 [4､0､2]	**5 件** [3､0､2]
その他遠県等	0 件 －	3 件 北海道､沖縄､岡山	2 件 北海道、長野	3 件 北海道、長野 2	**3 件** 長野、滋賀、東京

（4）主催者　自主講座・プロジェクトを除く（母数 32 業務）

◇最も多い業務の主催者は、教育団体系（教育委員会、学校、大学）が最も多く 11 件、次いで NPO が 8 件、自治体系（地方自治体や地域国際化協会など）6 件、JICA が 5 件、その他民間団体が 2 件（JC）あった。

主催者	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
教育団体系	13 件	18 件	12 件	9 件	**11 件**
NPO	7 件	8 件	5 件	7 件	**8 件**
自治体系	16 件	9 件	11 件	7 件	**6 件**
JICA	2 件	4 件	3 件	5 件	**5 件**
その他民間団体	0 件	0 件	0 件	1 件	**2 件**

（5）ワークショップの時間　対外的なワークショップを行っていない事業を除く（母数業務）

◇12 時間超が 11 件と最も多く、残りの区分は 6～8 件であった。12 時間超で時間数の特に多いのが次の業務である。

・オルタナティブ・スクールあいち惟の森テーマ・スキル学習　101.0 時間

・JICA 中部 開発教育指導者研修（実践編）42.5 時間

業務あたりの WS時間	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
3 時間未満	3 件	8 件	6 件	5 件	**8 件**
3～4 時間	12 件	14 件	10 件	6 件	**7 件**
4.5～6 時間	10 件	4 件	1 件	5 件	**7 件**
6.5～12 時間	6 件	3 件	5 件	4 件	**6 件**
12 時間超	12 件	12 件	12 件	13 件	**11 件**

※：1 業務の中に種類の異なる研修・講座がある場合は分けて計上した。分母は 44 業務である。

（6）依頼ファシリテーター数、時間（担当）

◇依頼ファシリテーター数（複数回講座でも１人で担う場合は１人として計上）は、55 人と、過去 5 年間の平均的な依頼数となっている。

◇代表の請負率（代表率）をみると 45%であり、最も低かった昨年度と同等の割合となっている。研究員が増えたことにより、研究員請負率は 51%と業務レベル※では半分を占めるようになった。

※代表はワークショップ時間や日数が長い業務を担っているため、時間数や日数の観点でみると、まだまだ代表が請け負っている割合は多い。

ファシリテーター		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
代表	伊沢	28	30	31	23	**25**
研究員	平野	8	5	5	5	**4**
	伴	6	2	3	6	**4**
	久世	2	1	1	3	**2**
	川合	1	3	2	3	**1**
	滝	1				
	山田	1				
研究員補等	堀川	3	2	1	1	**1**
	田口		2	1	3	**5**
	鉄井	1	1	2	5	**5**
	長野			2	2	**5**
	吉岡		1	1	1	**1**
	夏目			1		**1**
	佐藤				1	**1**
	永谷	1	1			
	守屋	1				
	菱川	1	1			
合計		56	50	50	53	**55**
代表率		50%	60%	62%	43%	**45%**
研究員請負数		21	12	12	18	**28**
同上率		38%	24%	24%	34%	**51%**
研究員補等請負数		7	8	7	12	**2**
同上率		13%	16%	14%	23%	**4%**
備考 （複数F依頼）		JICA（3） 愛知学院(2) 中京大(4) NANGOC（2） 三重環境(2) 小幡小(3) 国理セミナー(3)	JICA（3） 中京大(4) 三重環境(2) 小幡小(3)	JICA（3） 中京大(5) 春日高(2) ボラセン(3) 旭中(2) JICA北海道(2) 三重環境(2)	JICA（3） 刈谷(3) 春日高(2) ボラセン(5) JICA北海道(2) 三重環境(2) 名古屋JC（3）	JICA（3） 刈谷(6) 中京大(5) 春日高(2) ボラセン(5) 名古屋JC（3） 惟の森（5）

注1：自主講座、打合せ会議、市民主体のイベント支援に関わるのファシリテーターは除く。

注2：合計には退会した人の分を含む。

3 各ミッションに対する2018年度の総括（成果と課題）

❶ 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。

2018 年度の事業計画のミッション❶に関する総括は次のとおりである。

取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション❶の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション❶の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション❶に関する評価指標づくりと試験運用	◆NIED が提供する講座・研修が、ミッション❶に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析ができる評価指標の導入についての検討・試験運用することはできなかった。引き続き、検討・試験運用を始めることが課題である。

＜評価指標の参考＞

JICA 中部開発教育指導者研修(実践編)受講者が実践した授業等に対する学習者の変化指標

設問 19；学習者にどのようなより良い変化がありましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった	23	61%
2	自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った	23	61%
3	自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった	20	53%
4	自分に出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった	19	50%
5	学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った	18	47%
6	自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切にする意識が高まった	17	45%
7	話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった	15	39%
8	自らの生き方や共生について考えるようになった	14	37%
9	その他	3	8%
	全体	39	100%

オルタナティブ・スクールあいち惟の森基本構想における評価指標

中学校卒業時に一人ひとりに育まれているとよいと願う価値観とチカラ

❷ 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。

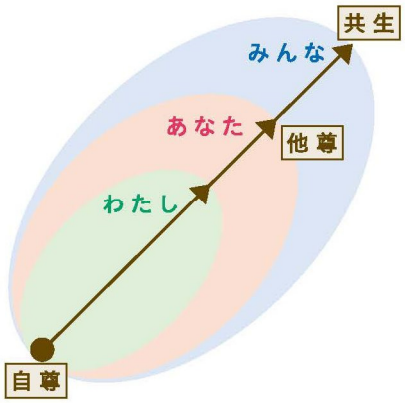
◇NIED が考える「自分、他者、社会に関わるスキル」とは、次のようなものである。

「わたし（自己）」に関わる力（自己形成分野）
＝自己理解、自己肯定感、自尊感情など

「あなた（他者）」に関わる力（人間関係形成分野）
＝コミュニケーション、他者理解、多様性理解など

「みんな（社会）」に関わる力（社会形成分野）
＝協力、協働、多様性受容、対立解決、政策提言　など

関わる力は関わることで身につき、参加する力は参加することで身につけることができます。



取り組み名	内容方針
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション❷の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション❷の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション❷に関する評価指標づくりと試験運用	◆NIED が提供する講座・研修が、ミッション❷に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析ができる評価指標の導入についての検討・試験運用することはできなかった。引き続き、検討・試験運用を始めることが課題である。
(c) 大半以上の若者にあると思われる「社会に対する効力感」のなさの打破	◆市民性教育により有権者が変わり、選択・行動が変わるという切り口から、NIED としてできる手立てと社会的インパクトの見通しを立てられなかった。

❸ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。

(1) 学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 の 2018 年度実績

◇現場…高校４、大学２、自治体関係３、民間２、JICA１、NPO３　◇対象…子ども９、一般６
◇テーマ…国際理解・SDGs 系８、人権系５、ファシリテーション・複合２
◇参加者数…**888** 人（昨年度 573 人）、　◇延べ **1,985** 人（昨年度 1,211 人）
◇提供時間…**239.5** 時間（昨年度 118.5 時間）

(2) 担い手を養成する研修 の 2018 年度実績

◇現場…小学校１、教育委員会２、JICA５、NPO５
◇対象…教員中心８、一般指導者等１、NPO 関係４
◇テーマ…国際理解・SDGs 系６、人権４、ファシリテーション・複合３
◇参加者数…**253** 人（昨年度 618 人）、　◇延べ **784** 人（昨年度 1,401 人）
◇提供時間…**127.5** 時間（昨年度 245.0 時間）

⑶ ミッション❸に関する NIED の自主的取り組み

◇ミッション❸に関する NIED の自主的取り組みについての実績・成果及び課題は次のとおり。

a. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座テーマ編2018　担当:久世

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 ①T講座	◇5 回、22 人、延べ 48 人、平均 9.6 人[前年度:4 回、25 人、延べ 42 人、平均 10.5 人]の参加者を得て、国際理解教育の様々なテーマ(多様性・コミュニケーション・自己実現・平和)について講座を行い、テーマごとに参加者とともに、学びを深めることができた。 ◇うち NIED メンバー(新入会者を除く)は、17 人、延べ 43 人[前年度:11 人、延べ 17 人]が参加し、NIED 人材の教育力向上に資することができた。 ◇「ハラスメント」という、今時の社会問題を取り扱い、新たな学びを得ることができた。	◆参加者数は、第 2 回「セルフ・エスティーム」が 6 名、第4回「環境(水)」が 9 名であり、平均も 9.6 名に留まった。各回 10 名以上の参加が学びあいの観点からも望まれる。収支面から見ても、赤字となっている。 ◆NIED メンバーの比率が上がっている。国際理解教育を広めていくという視点ではもの足らなかった。
その担い手を養成する研修 ②T講座 プロジェクト	◇5 月に担当理事、各回の担当ファシリテーター5 人および担当研究員でプロジェクトチームを立ち上げた。プログラム・メイキングの基礎をキックオフ・ミーティングで行い、その後担当ファシリテーターは担当研究員と共に複数回のミーティングを重ねてプログラムを錬り上げた。本番1ヶ月前にはプログラム検討寄り合いを行い、プロジェクトメンバーおよび寄り合い参加者からのアドバイスを受けながらさらにプログラムの練り込みを行った。 ◇当日は 6 時間に渡るワークショップを行い、外部参加者に対してファシリテーションを実際に行うという経験値を得ることが出来た。また講座終了後にすぐに振り返り会を行い、「よかったところ」「さらに良くなるための改善点」を中心に話し合いを行い、スキルアップを行うことができた。 ◇T講座全体を通して実際にファシリテーターとして経験値を増した。メンバーのみならず、担当研究員や講座・検討寄り合いに参加したNIEDメンバー全員の教育力向上を図ることができた。	◆NIEDのプログラム、ファシリテーションをよりよく提供しつづけるために、T講座のプログラムのあり方、メイキング体制について、すべての講座修了後に検討していく時間をとらなかった。
その担い手を養成する研修 ③NIED寄り合いT講座系	◇4回行われたT講座と連動し、各講座の1ヶ月前にT講座検討寄り合いを行った。講座の担当ファシリテーターが作成したプログラムを寄り合い参加者全員で検討したり、実際に予定されているアクティビティを経験したりしながら、研鑽に励むことができた。	◆関係メンバー以外の参加が少なく、すべての会員を対象に開催されているというアピールをさらに進める必要がある。

b. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座ファシリテーター編　担当：伊沢

区分	成果	課題
その担い手を養成する研修 F講座	◇なし。	◆2017 年度に 2 度開催したことと、余裕がなくなり、2018 年度は開催できなかった。 ◆学校教育において「アクティブ・ラーニング」への関心が高まり、本テーマに関するワークショップ依頼が増えている現状も鑑み、これまでNIEDが取り組んできた「参加型」の意味と意義と方法を体系的包括的に伝えることのできる NIED 人材を育成する観点からも、自主講座としてのF講座実施が不可欠である。 ◆まちづくり系、会議系、教育系など、多岐に渡るファシリテーションのどの場にも関わってきた NIED の経験知を活かし、「参加を文化に！」「オモイをカタチに！」「自ら考え自ら動く」人を内外に増やすため、NIED自主講座としてのF講座の意義を今一度確認しなおし、年度初めに日程を調整し備えることが必要である。

c. オルタナティブ・スクールあいち惟の森 テーマ・スキル学習プロジェクト　担当：伊沢

区分	成果	課題
学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座	◇4月～9月、Roots からの以降期間の半年は、月1～2回程度のお試しで、「協力」「“同じ”と“違い”について」「安心して気落ちよくいられる場所とルール」「自己理解／他者理解」「コミュニケーション」「平和」をテーマとして、伊沢、田口がファシリテーターとして8回、低学年と高学年に分かれてプログラムを提供。コンスタントに関わることで、こどもたちの特性を知り、ある程度関係を築くことができた。（低5人、高3人） ◇10月プレ開校以降の半年は、毎週1回、50分×3コマを17回ファシリテートした。テーマは「平和」「協力」「世界」「人権」「環境」「一年のふりかえり」を各2～3回ずつの連続講座で提供。伊沢、田口に加え、平野、永吉、長野がファシリテーターとして加わり、NIED テーマ・スキルチームの今後のイメージが少し持てるようになった。こどもたちのテーマ・スキルの目的理解が進み、参加型にも少しずつ慣れてきて、ワークショップが成り立つようになってきた。（低6人、高4人）	◆1年間のテーマ・スキル学習を分担して担う NIED ファシリテーターズの確保 ◆こどもたちが慣れてきたとはいえ、それぞれは大変個性的な人々なので、興味関心をいかに引き出し、いかに50分×3コマを効果的なアクティビティで構成し飽きさせずにねらいを達成するための手立て ◆体験的に会得した、低学年への効果的アプローチと高学年への効果的アプローチをどうファシリテーター同士で共有するか

d. IVY（アイビー）制度　担当：川合

…NIEDメンバーが他のNIEDファシリテーターが実施する研修・講座等に同行し、実際にワークショップやファシリテートを見て学ぶ機会を作るもの（交通費自己負担、報告書要提出）。

区分	成果	課題
その担い手を養成する研修 IVY 制度	◇2018 年度の利用は 1 業務延べ 1 名であった（昨年度：2 業務 3 名）。	◆2015 年度の会員アンケートでは、「利用したい」69%と利用意向は高いため、積極的なアピールなど利用者の向上を行うことが望まれる。

e. NIEDファシリテーター制度（研究員、研究員候補、T講座F経験者） 担当：川合

区分	成果	課題
その担い手を養成する研修 F制度	◇受託・派遣事業を担った代表以外のファシリテーターは次のとおりであった。 ① T講座F経験者… 1 人（永吉） ② 研究員候補…1 人（佐藤） ③ 研究員…8 人（久世、伴、平野、堀川、吉岡、田口、鉄井、長野） ◇代表以外がファシリテーターを担う割合が 55%（日数ベース）となり、業務レベルでは半数以上を占めるようになった。 ◇NIED ファシリテーター制度で昇格したファシリテーターは次のとおりであった。 ① T講座F経験者… 1人（加藤） ② 研究員候補…1 人（永吉） ③ 研究員…1 人（佐藤） ◇ファシリテーター制度上昇格したファシリテーターが各ランクで1名ずつあり、代表以外が受託・派遣を担うことにつながった。	◆NIED 全体の経営状況に関わらず、ビジョン実現に向けて、より多くの研究員を育てるミッションを進めるため、NIED ファシリテーター制度における昇格者を増やす手立てを継続して検討、実施していく必要がある。

❹ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。

(1) NIEDが直接コミュニティづくりをする事業の 2018 年度実績

◇地域・テーマの場…地域コミュニティ４、NPO１
◇対象…地域住民４、研修受講生１
◇テーマ…多文化共生１、コミュニティづくり３、市民活動全般１
◇参加者数…**58** 人（昨年度 149 人）、 ◇延べ **122** 人（昨年度 313 人）
◇提供時間…**30.5** 時間（昨年度 41.0 時間）

(2) その担い手を育成する研修の 2018 年度実績

◇地域・テーマの場…地域コミュニティ４、イベント１
◇対象…ボランティア系２、まちづくり系３
◇テーマ…ボランティア２、ファシリテーション１、子どもの人権１、まちづくり１
◇参加者数…**143** 人（昨年度 100 人）、 ◇延べ **192** 人（昨年度 115 人）
◇提供時間…**52.5** 時間（昨年度 52.0 時間）

❺ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

(1) ミッション❺に関する 2018 年度実績

◇アドボカシーの対象…自治体１、学校・教員４、NPO１、JICA１、内部１
◇テーマ…ESD・国際理解系４、自分・他者・社会に関わる力３、全般１

(2) ミッション❺に関する NIED の自主的取り組みの成果と課題

◇ミッション❺に関する NIED の自主的取り組みに関する成果と課題は次のとおり。

e. わたし・あなた・みんなプロジェクト ＝ミッション❷の自分に関わる力に関する研究・発信 **担当：滝**

区分	成果	課題
①SE テキストづくり	◇2018 年度は、前年度に引き続き、こども NPO との協働により、学習サポート事業の中で、学習サポーター対象に SE アクティビティの提供と検証の機会が得られた。 ◇その結果、学習サポーター対象の月例のミーティングに研修という形で、SE 理解についての 3 時間のワークショップを 9 月に 1 回実施することができた。4 名の参加者がそれぞれに改めて学習サポート事業と自らに向き合う機会を提供できた。 ◇17 年度から 2 年をかけての協働の中で、SE の視点から両団体の特色を生かした「こども NPO 中長期ビジョン策定」という新たな SE テキストへと通ずる協働の在り方が見えた。	◆テキストづくりという面に関しては、アクティビティ提供機会が１度だけで、アクティビティの検証という形では、滞ったと言ってよい。
②SE ラボ寄り合い	◇3 回行われた SE ラボを寄り合いとして継続することができた。	◆寄り合いという形は継続できたとは言え、活動内容が会員に見えづらいという状況が前年度から続いており、各回とも４名という少人数だったことは課題である。

f. NIED本出版プロジェクト　＝ミッション❷❸に関する研究・発信　**担当：田口**

成果	課題
◇「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『コミュニケーション編』−他者に関わる力を育もう−」(初版 515 冊、税込み 2,160 円) を昨年 3 月に出版した。この書籍販売のための方法(銀行口座の開設、申込みフォームの作成など)を確立し、広報のためにチラシ(1,000 部印刷)、SNS、WEB サイト、口コミ、ファシリテーター派遣の際の手売りなどで合計 390 冊販売することができた(13 冊献本)。 ◇書籍活用のための主催講座を開催することができなかったが、他団体から書籍活用のためのファシリテーター派遣依頼があり、それにこたえる形で講座を実施することができた。 ◇プロジェクトメンバーのミーティングを 10 回開催した。	◆書籍が残り 112 冊をいかに販売するか。 ◇書籍の出版で培った経験を活かして新たな書籍の出版に取り組む。

g. 公共プロジェクト　＝ミッション❶❷❸に関する研究・発信　**担当：谷口・吉岡**

成果	課題
◇2018 年 6 月に立ち上げ、ほぼ毎月開催した寄り合い(11 回開催)を通して、「公共」という新教科の情報を集め、「公共」の教育の中で NIED ができることを考えた。その結果、公共の学習の中でテーマとなり、かつ NIED が大切に考えるテーマに対して、授業でできる参加型学習の教材作成を進めた。 ◇より多くの人にその教材を利用してもらうため、「ワークシート」と「指導書」の形での教材販売の提案など出版社とのコラボレーションを模索した。	◆教材開発を進めるとともに、実践の機会を作り教材をより良いものにしていく必要がある。 ◆出版社との関係も含めて、開発した教材をどのように世に出すかを決めていく必要がある。

h. 書籍活々(いきいき)プロジェクト　＝全ミッションに関わる調査・研究　**担当：伴**

成果	課題
◇事務所移転に伴い、書籍収納スペースが縮小されたのを機に、古い書籍や複数冊存在した同一書籍を整理した。 ◇書籍貸出は 8 人から 14 冊の利用があった。(昨年度：11 人から 50 冊) ◇プロジェクトメンバーミーティングを1回、NIED メンバーとのワークショップを2回(「絵本セラピー(参加者 5 人)」「どう解く？道徳(参加者 4 人)」)行った。	◆会員と共に学び合える書籍活用の機会づくりを計画的に進める必要がある。

i. NIED情報共有システム　＝全ミッションに関わる調査・研究　**担当：川合**

区分	成果	課題
実績成果の共有	◇実績成果に関わる情報ボックス「NIED−ShareBox−2」フォルダに、当該年度のT講座の記録等を整理・格納した。 ◇受託業務への派遣される NIED ファシリテーターのニーズ応じて、過去のプログラムや教材を提供した。	◆情報ボックスの許容量を踏まえつつ、F講座の記録、ファシ報告書などについても優先順位を決めて、共有する方向で検討する必要がある。

一般情報 共有・交換	◇会員メーリングリストの年間投稿数は 318 件[前年度 265 件]であった。 ◇発行の半分を理事が担うことにより、NIED 徒然の発行は、4 月から 11 号[前年度:10 号]発行することができた。 ◇「NIED-ShareBox-1」は、一般的なウェブからもアクセスできるようなシステムを作り、新入会員が入るごとに周知を図った。	◇NIED 徒然を、8 月を除き毎月発行することができた。 ◆各月の発行日が遅れることがあった。「定期」発行するための方策について検討が必要である。

j. ホームページ・広報プロジェクト　＝全ミッションに関わる発信　**担当:堀川・川合**

成果	課題
◇電子媒体による広報活動として、NIED の活動実績等を NIED ブログに 16 件[前年度 18 件]投稿した。 ◇NIED フェイスブックページは 870 人がフォローし、19 件[前年度 31 件]投稿した。	◆ブログ、フェイスブックへの投稿数が減少傾向にある。広報担当者だけでは活動すべてを把握することが難しく、活動に関わる人が広報にもかかわったり、投稿したりできるような形にしていくことが望まれる。 ◆改訂した NIED のビジョン・ミッション・バリューを掲載し、それが伝わるような活動実績等の見せ方、その他発信の方法を検討する必要がある。 ◆簡易なものでよいので、NIEDの活動を紹介する紙媒体(リーフレット)を作成する必要がある。

4 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

● **A. 参加・対話・体験型の研修・講座などに対する相談・ファシリテーター派遣事業**

（1）事業内容

自治体、教育委員会、民間団体などからの依頼により、国際理解、人権、環境、まちづくり・ファシリテーションなどをテーマとした参加・対話・体験型講座・研修にファシリテーターの派遣を行った。

（2）開催概要

2018 年度は、合計 22 事業（前年度：26 事業）で、研修等の提供時間は 153.5 時間（前年度：189.5 時間）あった。個別の事業の依頼主／主催、事業名／研修テーマ、実施日時、場所、対象、参加者数、提供時間、ファシリテーター・スタッフなどの詳細は巻末一覧表、収入・支出の内訳は収支計算書類を参照のこと。

（3）延べ参加者数　17,09 人（前年度：1,760 人）

（4）収入額　2,044,425 円（昨年度：3,154,692 円）謝金、委託費、交通費等

（5）支出額　1,582,781 円（昨年度：2,186,875 円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金 632,834 円、謝金・外注費 643,215 円、旅費交通費 305,220 円、その他 1,512 円

● B. 基礎研修およびファシリテーター養成などの自主講座事業

（1）事業内容

主に、人権・環境など国際理解教育の基本テーマを扱う講座、ファシリテーター講座、「月夜場」と題した自由な集まりの講座を自主事業をとして行った。

（2）開催概要

2018 年度は、合計 1 事業（前年度：4 事業）で、研修等の提供時間は 30.0 時間（前年度：68.0 時間）であった。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

（3）延べ参加者数　　48 人（前年度：118 人）

（4）収入額　118,500 円（昨年度：567,600 円）参加費

（5）支出額　182,530 円（昨年度：270,916 円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金 42,865 円、謝金・外注費 120,000 円、旅費交通費 17,120 円、消耗品・その他 2,545 円

● C. 環境や人権などを視点としたまちづくりのプロセス企画・実施事業

（1）事業内容

地方自治体などにおける環境や人権を視点としたまちづくりのプロセス・プログラムの企画立案、ファシリテーターとしての支援、記録・報告書作成までの一連の業務を行った。

（2）開催概要

2018 年度は、合計 6 事業（前年度：6 事業）、研修等の提供時間は 165.0 時間（前年度：179.0 時間）のワークショップを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

（3）延べ参加者数　1,228 人（前年度：1,123 人）

（4）収入額　14,171,642 円（昨年度：18,077,436 円）委託費

（5）支出額　12,405,528 円（昨年度：16,351,679 円）給与･法定福利費・臨時雇用賃金 4,745,621 円、謝金・外注費 5,903,127 円、旅費交通費 704,999 円、通信運搬費 506,961 円、印刷製本費 517,384 円、消耗品・その他 27,436 円

● D. 目的を実現するために必要な調査・研究・情報提供事業

（1）事業内容

国際理解教育・開発教育を推進するため、「必要な調査・研究を行う」、「ＰＲする」ことを、研究会方式などにより行った。

（2）開催概要

2018 年度は、8 つの事業（前年度：4 事業）、研修等の提供時間は 111.5 時間（前年度：6.0 時間）のワークショップなどを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

（3）延べ参加者数　215 人（前年度：33 人）

（4）収入額　1,789,820 円（昨年度：1,283,888 円）委託費

（5）支出額　1,153,495 円（昨年度：1,339,763 円）給与･法定福利費・臨時雇用賃金 557,524 円、謝金・外注費 364,000 円、旅費交通費 216,980 円、消耗品・その他 3,527 円

5 会議の開催に関する事項

（1）総会　2018 年度定期総会

日　時　2018 年 6 月 3 日（日）14:30～16:45

場　所　本山シェアオフィス（NIED 事務所）

出席者数　正会員総数 42 人中、当日出席 28 人、委任状出席 14 人、合計 42 人

議　題
(1) 2017 年度事業報（案）及び収支決算（案）の承認に関する件------承認
(2) 2018 年度事業計画（案）及び予算（案）の承認に関する件------承認
(3) 役員の改選に関する件------承認
(4) 定款の変更の承認に関する件------承認

（2）理事会　2018 年度は、下表のとおり 5 回開催した。

回	日時	議題	場所	出席
1	4月6日（金） 18：00～20：30	(1) 事務所移転について (2) 2018 年度の事業規模と給与・謝金の規程について	本山ｼｪｱ ｵﾌｨｽ	5 人
2	5月6日（金） 13：00～17：30	(1) 事務所引っ越しについて (2) 定期総会の内容について (3) NIED 本出版プロジェクトの収入の扱いについて	本山ｼｪｱ ｵﾌｨｽ	5 人
3	5月20日（日） 13：00～17：30	(1) 2017 年度業務報告、決算報告について (2) 2018 年度の事業計画と予算・体制 (3)定款の変更について (4)役員の選任について	本山ｼｪｱ ｵﾌｨｽ	6 人
4	1 月 5 日（度） 14：00～16：30	(1) 各プロジェクトの状況について	新事務所	6 人
5	3月10日（日） 16：00～18：30	(1) 各プロジェクトの状況について (2) プロジェクト担当者謝金について	新事務所	6 人